



# つなぎ

町報

昭和59年  
7月1日  
第222号  
津奈木町役場  
企画課  
行集刷  
発編印



## 山林に活! 昭和59年度→63年度 森林総合整備事業がスタート

「夏からの管理は補助金でやれる」

本町が山林育成最も期待をかけた森林総合整備事業が、今年の五月地域指導を受けた。現在町と森林組合が一体となって山林所有者個々の計画書づくりに懸念である。この事業指定期間は難かしい曲折があった。全国で希望市町村が多く、今年初め県からは今年は津奈木町は見送った「ほい」の連絡で一時あきらめていた。幸い、町の熱意に対し、県関係者は国政関係の方々の協力が得られ、急ぎ指示が受けられたものである。県内では各年四箇所が指定を受けている。

近年、造林事業は低迷傾向にあるしかしながら下刈り、伐倒の実績も積み重ねられており、事業の実績が神助金とは意書の作成を急いでいる。

みなんさん刈り、間伐など実施する事業費補助金もある。たゞ、事業主体の森林組合は所有者の同意を得て、はじめて事業組合では、山林所有者各戸の同意書の作成を急いでいる。

町花・つわぶきの里づくり

先月五日、総運動公園の体育館北側などに町花・つわぶきの苗が植付けられた。これは老人会からも自主的につわぶき植付けの協力を得た。

老人会には植付予定に合わせて、山林みどりなどから採

▲間伐材運搬作業中の森林組合職員(千代連石にて)

予定外は前日の雨模様に、係

「雨でも行!」の予告だったのに

午後からシカソウの天気。作業班の西口収入役、夕方近くになつてから、とうとう流れきれ

積んだところから、自らハケツ

水は。このかいて植え付いた

たが、通りの生育のようだ。

予定外は前日の雨模様に、係

「雨でも行!」の予告だったのに

午後からシカソウの天気。作業班の西口収入役、夕方近くになつてから、とうとう流れきれ

積んだところから、自らハケツ

水は。このかいて植え付いた

たが、通りの生育のようだ。